



とうきょう すくわくプログラム

2024年度活動報告書

八王子みなみ野雲母保育園



テーマ

【花や植物に親しみ、花や植物を使って表現する】

設定した理由・背景

散歩に出かけると、野花や植物に足を止め、見入ったり、興味関心を持っていたりする姿があるため、植物を育て、植物を使って様々な表現を行ってみようと考えた。

用意した環境設定

- ・ 気になった植物を保育園へ持ち帰る。
- ・ 植物を飾ったり、植物を使って表現できるように絵具や紙などを準備する。

・ 購入物品

絵具、模造紙、オアシス、花器、花

活動のあゆみ

4～8月

戸外で野花の観察、朝顔、野菜（オクラ・ナス）の栽培

7/31（水）野菜の煮汁で布染め

10/7（月）散歩でススキやねこじゃらしを持ち帰る。

10/10（木）ススキやねこじゃらしでお絵描きをする

11/21（木）拾い集めた落ち葉で製作

1/28（火）生け花1回目

2/21（金）生け花2回目

3/26（水）生け花3回目

✽探究活動の実績✽

①どんな問いかけから始めましたか？

散歩時に、子どもたちが見つけた野花をじっと観察したり、大切そうに持ち帰る姿を見て「なんていう名前の花か知ってる？」「知っている花はある？」と問いかける。

②子どもたちの反応とそれに対して保育者側から行った声かけ

2歳児クラスの子どもは「知らない」とだけ発し、視覚的に捉えたままでそこから疑問には繋がらなかった。4歳児クラスの子どもは、「何て名前？」と質問したり自分のクラス名の「さくらは知ってる」と答える姿が見られた。保育者が花の名称を伝えたり、保育者も知らない花の場合には、「先生も知らない花だから一緒に調べてみようか？」と提案し、帰園してから改めて花のイラストが載っている絵本で調べ、知識を共有した。さらに、探求心を引き出せるよう「先生も見た事もない花が沢山あるからどんな花があるか調べてみる？」と問いかけ、植物に関する活動を積極的に取り入れる事にした。

③活動中の子どもたちの姿・声、子ども達同士の関わり・対話

春、少しずつ子どもたちの自我の成長により好きな色が出て来ると、戸外に出た際に個々に好きな色の花を探すようになる。友だち同士で「きれいだね」「ママにも見せたいから持って帰る」と色々な人と嬉しい気持ちの共有を求める姿が増える。

夏には、保育活動内で朝顔を育てたり、栽培し収穫した野菜やアサガオを使って煮汁にしたもので布の染め出しをしたり、残った煮汁で色水遊びを行った。野菜の栽培途中で、茄子やオクラの花が咲くと、花が咲く事自体の概念が無く結びつかなかったようで、「このお花が茄子にどうやってなるんだろう？」と疑問を発し、日々の観察を熱心に行っていた。

秋になると、戸外で子どもたちが気になったねこじゃらしや、すすきを使って遊んでいた。その姿を見た保育者が、それを使って筆のようにして表現する事で製作を行う。戸外でしか触れた事がない素材だからか、様々な持ち方で思い思いに表現する。また、出来上がった作品は、室内や玄関に掲示して、保護者にも共有している。また、散歩先で子どもたちがそれぞれ見つけてきた落ち葉を持ち帰り、落ち葉アートも行った。



④終わりの時期の姿・まとめ

冬になり、戸外で草花が見られなくなる時期に行った初めての生け花では、図鑑で春に見られる花を調べてから花屋に花を買いに出かける。特に2歳児は好きな色の花を率先して選ぶ姿が多く見られたが、回数を経ていくと少しずつ季節を意識したり、香りにも着目して、「いい匂いがする」「お菓子みたい」と例える姿が見られた。触った感触としては、「ざらざらするね」「ふわふわだよ」等、子ども同士でそれぞれの感性で伝え合っていた。また、手本用として保育室内で飾っていた花をドライフラワーにすると、4歳児が「なんでこのお花だけ？」と気付いた。それに対し、「枯れてしまう花と、枯れないできれいなまま飾れる花があるんだよ」と伝えると不思議そうな表情を見せていた。今後はこういった枯れる花と枯れないで飾れる花を意識して花を選ぶ機会を作っていこうと思った。

クラス内で球根から育てているチューリップが、毎日当番制で水をやり続ける事で、ある日小さな芽が出ている事に気づいた子どもが興奮気味に「芽が出てる」と知らせると、他の子どもたちも実際に見に行き観察し、より花の姿に成長する事に期待感を持って水やりをしていた。

今

まとめ

今回の活動を行った事により、散歩時にどんな花で名称は何なのか、まで新たな疑問へと発展する機会が少なかったが、活動を進めていく内に、子どもたち自ら図鑑を見て調べるようになったり、子ども同士で「チューリップは春に咲く花だよ」等、知識として一歩進んだ会話をする姿が見られるようになった。季節ごとに咲く花だけでなく、野菜にも花が咲く事や、植物を使って色水やアート作品に変化する事等を1年間を通して行う事で、より植物への興味や関心が高まり、探求心が深まっているよう実感しました。今後はさらに、知識を深めた事で湧く疑問をすぐさま拾い上げ、探求心を満たしていこうと思いました。